

iPadを使用した実践について

広島県立広島南特別支援学校

(聴覚障害領域)

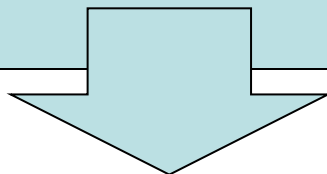
■ 活用目標

聴覚障害を有する幼児児童生徒の教育活動に有効な使用方法を研究する。

■ 活用状況の変化 ①

1学期

- ・iPadの設定
- ・iTunesの設定(アドレスの用意等)
- ・使用簿, 使用計画表の整備



活用頻度が上がらない。

理由: ・使い方が分からない

・PC, プロジェクタ・液晶テレビ等で十

■ 活用状況の変化 ②

夏季休業中

- ・各学部ごとのiPad研修会
- ・幼児児童生徒の実態に合わせて、各学部で使用したいアプリや方法の聞き取り



活用頻度が徐々に増えた。

■ 活用事例 ①

教科・領域	国語
学部・学年	小学部2年
アプリ	漢字練習
活用状況	国語の学習の中で、漢字の復習をするときに何度か活用した。

成果

ゲーム感覚で楽しく復習しており、漢字の読みや書きをよく考えていた。

課題

2年生で習う漢字でも読みや書きが学年相応ではない言葉で出題されており、回答がなかなかできないものがあった。大人向け、児童向けなど問題が多様に選択できるようになっているとよい。

■ 活用事例 ②

教科・領域	自立活動
学部・学年	小学部2年
アプリ	筆談パッド
活用状況	声や手話を使わずに書記のみで会話をし、書き言葉でどの程度コミュニケーションができるか、相手に伝わる文章が書けるかの学習を行った。

成果

分からない言葉は「→何？」や「分からない」と聞いたり、児童の書き間違いをその場で訂正することができたり、普段とは異なる雰囲気での学習することができた。

課題

書くときのインクの色が固定されていたので、色も選択できるようになると、どちらが書いたのか分かりやすく、やりとりがより円滑になる。

■ 活用事例 ③



教科・領域

理科

学部・学年

中学部1年

アプリ

インターネット

活用状況

世界各国及び日本各地の天気・気温を調べたり，その場所が地図上のどこかを調べたりするときに活用した。

成果

自分で操作することにより，学習内容にも興味が増し，積極的に授業参加ができた。

課題

今後，様々なアプリの開発で簡単な理学的実験ができるものが開発されれば，更に活用範囲が広がると思う。

■ 活用事例 ④



教科・領域 野外活動(朝学習)

学部・学年 中学部2年

アプリ 書き取り漢字練習, 漢検あなたは何級?, ひらがななぞり, カタカナなぞり, かけ算九九トレーニング

活用状況 野外活動の朝の時間を利用して, 朝学習を行った。生徒の実態に合わせてアプリを指定し行った。

成果

ゲーム感覚で行えるため, 意欲的に集中して取り組めた。事前に課題を準備する必要がなく, 手軽である。生徒の実態に合わせて, アプリや難易度を変えられるため, 便利である。

課題

台数が少なく一斉に行えなかったため, 身支度等をするグループと交代で行った。

■ 活用事例 ⑤



教科・領域
学部・学年
アプリ
活用状況

特別活動(生徒会活動)

高等部

インターネット(YouTube)

文化祭のステージ発表「ダンス」の振り付けを考える際に、様々な動画を検索し参考にした。

成果

操作や持ち運びが簡単なので、生徒が必要なときに必要な場所で手軽に使うことができ、自主的な活動につながった。音響卓と接続することで、講堂のスピーカーから大音量で出力し、手軽に聴覚活用を促せた。文化祭本番には、動画をもとに練習したダンスを発表し会場を盛り上げた。

■ 今後について

- 聴覚障害を有する幼児児童生徒の発達段階に応じた教育実践を蓄積し、有効なアプリや活用方法の研究を継続する。
- Wi-Fiや周辺機器の整備を行い、円滑に使用できる環境をつくる。
- 本研究をもとにして、iPadの適正な配置を進める。